

令和4年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校長 南波 克典

学校教育目標		「命」と「心」を大切に、「夢」を描き、輝かしい「未来」に向け前進する生徒の育成	4月		2～3月	
推進主体		研究推進委員会	学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
推進主体		研究推進委員会	(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学力 の 状 況	これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体をとって、優良な結果である。</li> <li>【国語】 <ul style="list-style-type: none"> <li>「適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適当なものを選択する」という設問では、全国平均を20ポイント以上上回った。豊富な示キャプラリーと、適切な敬語表現を身に付けていることがうかがえる。</li> <li>「読むこと」の領域にすこし課題が見られる。明治・大正時代の作品に出てくる語句や言い回しについて、正しく把握できていないため、全国正答率を3ポイント下回った。今後は、古典文学に多く触れさせたい。</li> </ul> </li> <li>【数学】 <ul style="list-style-type: none"> <li>「示された図形の面積の求め方を説明する」設問では、正答率が8割を超えており、図形の面積を求めることについての理解が高まっている。公理に当てはめて面積を求めるだけでなく、求めるために必要な辺の長さを図示し、説明を加える学習を進めていることが成果につながった。</li> <li>「理由を説明する」設問に課題があり、条件が揃っている設問が多くみられる。問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。図やグラフ、文章など様々な表現された情報を関連付け、条件を整理する活動を積極的に取り入れる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア教育・進路指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒90% 保護者80% 以上</li> <li>○「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査 ⇒70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内キャリア教育推進体制の強化と校区内異校種間連携体制の整備を図る。</li> <li>・キャリアパスポートの活用を推進する。中学校卒業後も振り返りに活用する意識づけをする。</li> <li>・「コロナ禍」における「トライやる・ウィーク(2年)」は、感染症予防に努めながら、体験活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア教育」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート(生徒、保護者) ⇒ 生徒90.4% 保護者70.4%</li> <li>生徒の肯定的評価が90%以上、高い評価を得た。「キャリアパスポート」を核として「キャリア教育」の研究を校区内4小中学校で連携して推進している結果と思われる。</li> <li>◆保護者の肯定的回答は70%であり、目標に届かなかった。保護者へのより丁寧で頻繁な情報発信に努めたい。</li> <li>◆「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査⇒63.8% 70パーセントという目標に達しなかった。今年度は、「トライやる・ウィーク」を従来の形に近い形で実施した。地域の協力を得て色々な職業体験、文化体験ができた。これからの肯定的回答が増えることが望まれる。</li> </ul>	B
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちは各自でしっかりと、目標を定めて取り組んでいる。</li> <li>学校評価アンケートに、定期考査の難易度が高すぎるという回答が見られた。指導と評価の一体化についての研究が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒70% 保護者80% 以上</li> <li>○タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合 ⇒100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前から、12年間を見通した教育を推進するため、小中高校連携を図る。</li> <li>・タブレットの使用等ICTを活用した学習活動をおとして、情報活用能力の育成を図る。</li> <li>・伝統や文化に関する教育を推進し、特色ある学校づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒ 生徒78.0% 保護者72.3%</li> <li>◆「特色ある学校づくり」については、保護者と生徒の間に約6%の差があり、今後の本校の課題となっている。生徒会が学校ボランティアに対して感謝の集いを開くなど、地域の方々とともに「特色ある学校づくり」に努めた。今後も生徒会等から生徒の意見を反映させて「特色ある学校づくり」に努めていく。</li> <li>○小中連携は生徒指導や特別支援教育などを中心に定期的に実施できた。</li> <li>○タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合⇒100%</li> <li>「道徳」や体験活動を含めた全教科・領域を研究対象として、学んだことを主体的に活用し、応用・発展していけるような授業展開や個別最適化した教材開発について、全教員による校内研究会等を通して研究と修業に努めることができた。保護者へ、文化祭「合唱コンクール」を「YouTube」により配信できたことにより、保護者からの反応も良かった。</li> </ul>	B
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>親じて落ち着いた授業態度である。</li> <li>◆主体的・対話的で深い学びの深化を図るための更なる研究が必要である。</li> <li>◆一人一台タブレット端末が支給されている。このICT機器を上手に活用して、主体的に学ぶ力を育成する研究が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校教育目標の達成」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒90% 保護者90% 以上</li> <li>○「読書が好き」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査 ⇒70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会を中心に、全国学力・学習状況調査等を活用し、学力向上に努める。</li> <li>・朝読書、朝学習、がんばりタイム、タブレット端末の活用等により一人一人の確かな学力の育成を図る。</li> <li>・「さんだっ子読書通帳」の活用により、小学校時代から続ける読書活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校教育目標の達成」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒ 生徒89.0% 保護者85.7%</li> <li>◆保護者の肯定的回答の割合が目標に達しなかった。学校通信で学校教育目標を強調するなどしていきたい。</li> <li>○「読書が好き」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査 ⇒ 学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)に読書をする生徒67.7%</li> <li>○朝読書、朝学習、がんばりタイム等により、確かな学力の定着が図れた。また、「さんだっ子読書通帳」の活用により、読書活動の推進を継続することができた。</li> <li>○今年度は、「タブレット端末」を授業はもとより朝学習にも活用し、主体的に学ぶ力や個別最適化の学びにつなげた。</li> </ul>	A
	学力向上に資する生活・学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習に対して非常に意欲が高い生徒、自分で計画を立て、長時間学習に励んでいる生徒の比率が高い。</li> <li>○学習にICT機器を使うことで効果があると思っている生徒の比率が高く、普段からICT機器を使用している生徒の比率も高い。</li> <li>◆学習指導(学校評価アンケート)についての肯定的評価が、生徒は91%となっているが、保護者は86%と差がある。</li> <li>◆住んでいる地域の行事への参加に課題がある。コロナ禍での交流はなかなか難しいが、昨年度は地域の方々から講演をしていただき、交流の場を設けることができた。今後も、トライやるウィークをはじめとした学校行事や生徒会活動を通じ、コロナ禍ではあるが可能な限り地域に住んでいる方々との交流の機会をつくっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒90% 保護者90% 以上</li> <li>○ゆりのき台中学校区学校園各種「連絡会」「研修会」の開催回数 ⇒計10回 以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの連続性」を意識したゆりのき台中学校区での連携の深化を図る。</li> <li>・学校園所連携推進に係る各種「ゆりのき台中学校区連絡会」「研修会」の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒ 生徒94.0% 保護者90.7% 目標を達成できた。</li> <li>○肯定的評価が、保護者、生徒ともに90%以上となっている。ホームページを中心に学校の情報をできるだけ早く正確に伝えることによるものと考えられる。</li> <li>○ゆりのき台中学校区学校園所「連絡会」「研修会」は15回以上、目標を達成できた。学校長をはじめ生徒指導や特別支援教育、キャリア教育、コミュニティスクール活動などで、小中学校間では定期的なだけでなく、日常から必要に応じて連携を深めることができた。</li> </ul>	A
校内研究状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に学び合い、対話を通して深め合える授業づくり～GIGAスクール構想にむけて～をテーマにタブレット端末を活用した授業づくりについて研究を推進している。</li> <li>◆防災教育「特色ある学校づくり」が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒90% 保護者85% 以上</li> <li>○授業公開をした教員の割合 ⇒100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来を創造し、心豊かに『生きる力』を育む『情報』教育」をテーマに、三田市教育委員会特別指定研究に取り組む。研究発表会を行う。</li> <li>・学期に一度、教員対象の授業公開期間を設ける。</li> <li>・講師を招聘し、授業研究会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒ 生徒90.4% 保護者80.7%</li> <li>◆保護者の肯定的回答の割合が目標に達しなかった。今後も、オープンスクールなどを通じて、保護者に実際の授業を見てもらい理解を進めていきたい。</li> <li>○授業公開をした教員の割合 ⇒ 100%</li> <li>すべての教員が相互に授業を公開を行い、授業力を高めることができた。去年度に引き続き、三田市教育委員会特別指定「情報」教育の研究を推進することができた。教職員のタブレット端末をいかに個別最適化の授業へ資力が向上した。</li> </ul>	A	
家庭連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆家庭・地域との連携のもと、放課後や夏休みにもタブレット端末を利用して学力補充を進める必要がある。</li> </ul>					
小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆小・中の教科間の連携から、キャリア教育と道徳教育を軸とした、系統性を重視したカリキュラム連携への発展を目指す。</li> </ul>					